

# 省エネ・節電実行計画 [H30年度 冬季] の結果報告

(実施期間: 12月1日から3月31日)

## ◇エネルギー消費原単位削減目標 【前年度比 冬季実績 1%以上削減】

平成29年度実績

平成30年度実績

- ① 東山地区 17.71 L/m<sup>2</sup> ⇒ 16.87L/m<sup>2</sup> **4.8%減 目標達成**
- ② 鶴舞地区 22.97 L/m<sup>2</sup> ⇒ 22.10L/m<sup>2</sup> **3.8%減 目標達成**
- ③ 大幸地区 6.69 L/m<sup>2</sup> ⇒ 6.28L/m<sup>2</sup> **6.2%減 目標達成**

⇒各団地の冬季月別エネルギー消費原単位の推移は右図を参照

## ◇ベース電力削減目標 【前年度比 冬季実績 1%以上削減】

平成29年度実績

平成30年度実績

- ① 東山地区 8,770 kW(3.7℃) ⇒ 8,754kW(5.1℃) **0.2%減 目標未達成**
- ② 鶴舞地区 4,056 kW(3.9℃) ⇒ 4,002kW(5.4℃) **1.3%減 目標達成**
- ③ 大幸地区 170 kW(3.2℃) ⇒ 167kW(4.9℃) **1.8%減 目標達成**

※ 評価時刻は冬季期間中の時刻毎の平均電力量が最低となる時刻とする  
( ) 内の温度は評価時刻における冬季期間中の平均気温を示す

## ◇名古屋大学全体における冬季エネルギー消費について 【前年度比】

エネルギー消費量 523,791 GJ ⇒ 507,294GJ **3.1%減**  
エネルギー原単位 18.79 L/m<sup>2</sup> ⇒ 18.20L/m<sup>2</sup> **3.1%減**

※ 東山、鶴舞及び大幸地区の合算値 (3地区合計で大学全体エネルギー消費の約99%)

## ◇冬季実績に関する考察

- ・各団地でエネルギー消費原単位の削減目標は達成された。この主要因は、暖冬（12月～2月の平均気温が前年度より1℃以上高く、冬日数が前年度の29日から13日に減少）による空調エネルギー消費の低減である。
- ・建物別には、ドラフトチャンバーの設置台数が多く、換気量の多い建物で比較的大きな削減傾向が見られる。換気空気の加熱は空調エネルギーに影響を与えるため、この傾向も暖冬を反映した結果と考えられる。
- ・ベース電力は、東山団地で目標が達成できなかった。昨年度実績に対し、今冬はC-TEFsが新規稼働したことが主な要因である。（東山団地でC-TEFsを除いた場合のベース電力は 3.5%減となる）
- ・重点事項とした空調集中制御エリア拡大やサーバクラウドサービス移行は参加率が低かったため、継続的な取組みとして実施してゆく。

